

ペットと暮らすとどうこと

一年 川合なぎさ

ボーダーコリーという犬種は、活発でとても頭が良い。賢いゆえにイタズラが天才的で、躰をしないととてつもなく飼いづらい犬種として有名である。

実はわが家には、飼育を放棄した人から託された、いわゆる保護犬がいる。飼いたいと言ったのは私の6歳年上の姉。幼い頃から何度も

「犬を飼いたい、かわいいから飼いたい触りたい。」

と言っていたようだ。

「それならぬいぐるみでいいじゃん。オシッコも出ないし、ご飯もあげなくていいし。」

と、母が返事をしていたのをなんとなく覚えてる。それでも根気よく飼いたいと言い続けていた姉。そのうち母も、だんだん犬を飼うことを真剣に考え始めたようだ。

そして姉が小学二年生の頃、保護犬サイトで偶然見つけたボーダーコリーを引き取るようになった。名前はジャックス。前の飼い主は小さな部屋で飼っていたようで、こんなに大きくなると思わなくて飼えなくなってしまったということだった。

飼い始めた時はとても大変だった。帰宅すると、トイレシートは毎回ビリビリ、トイレトレーをひっくり返して破壊、設置した犬用のクレートを噛み続けて鍵がかけられなくなってしまったこともあったし、散歩のリードを噛みちぎったこともあった。とにかく毎日が戦いで、母が頭を抱えていたのを覚えてる。

それでもやはり、散歩の時の笑顔、ボール遊びの時の真剣なまなざし、お手や伏せを教えると数日後には完璧になる賢さはたまらなくかわいくて、この子のために何ができるのかをみんなで自然に考えるようになり、しつかり躰をしながら大切に育てていった。そうして月日が経てば経つほど愛すべき存在になっていった。みんなジャックスが大好きだ。

先月のある日、ジャックスは病に負け九歳十一ヶ月という少々短めの生涯を閉じた。遠くに住む姉も兄もちょうど夏休みで自宅に帰っており、家族全員が揃ったところで息を引き取ったのだ。壊れそうなくらい泣いた。みんなに看取って欲しかったのかな。ジャックスらしい最期だなと思った。

ペットを家族として迎えることは簡単なことではない。言葉も通じないし思い通りの行動はしてくれない。それに何より人間よりも寿命が短いので、ほとんどの場合、死を目の当たりにする。

ペットショップで買うことが悪いことだとは言わないが、その場の思いつきや勢いで買うことだけは絶対にやめてほしい。覚悟して飼うべきだと私は強く思うしこれから犬を飼う人に伝えたいなと思った。